

商品名 ファロム錠150mg 医薬品基本情報

薬効	6139 その他の主としてグラム陽性・陰性菌に作用するもの	一般名	ファロペネムナトリウム水和物錠
英名	Farom	剤型	錠
薬価	127.50	規格	150mg 1錠
メーカー	マルホ	毒劇区分	

ファロム錠150mgの効能・効果

慢性膿皮症、リンパ管炎、リンパ節炎、ざ瘡＜化膿性炎症を伴うもの＞、深在性皮膚感染症、表在性皮膚感染症、(外傷、熱傷、手術創)の二次感染、咽頭炎、外耳炎、顎炎、角膜潰瘍、急性気管支炎、喉頭炎、肛門周囲膿瘍、子宮内感染、歯冠周囲炎、子宮付属器炎、歯周組織炎、腎盂腎炎、中耳炎、乳腺炎、肺炎、肺膿瘍、麦粒腫、バルトリン腺炎、副睾丸炎、副鼻腔炎、扁桃炎、膀胱炎、瞼板腺炎、涙嚢炎、精巣上体炎、前立腺炎＜急性症＞、前立腺炎＜慢性症＞、角膜炎

ファロム錠150mgの使用制限等

1. 本剤成分又は含有成分で過敏症の既往歴	記載場所	使用上の注意
	注意レベル	禁止
2. 類薬で過敏症の既往歴、アレルギーの家族歴、気管支喘息の家族歴、蕁麻疹の家族歴、発疹の家族歴、アレルギーを起こし易い体質、気管支喘息を起こし易い体質、蕁麻疹を起こし易い体質、発疹を起こし易い体質、経口摂取の不良、全身状態の悪い、非経口栄養、高度腎機能障害	記載場所	使用上の注意
	注意レベル	注意

ファロム錠150mgの副作用等

1. ショック、アナフィラキシー、不快感、口内異常感、喘鳴、呼吸困難、眩暈、便意、耳鳴、発汗、全身潮紅、血管浮腫、血圧低下、急性腎障害、重篤な腎機能障害、偽膜性大腸炎、血便、重篤な大腸炎、腹痛、頻回の下痢、中毒性表皮壊死融解症、Toxic Epidermal Necrolysis、TEN、皮膚粘膜眼症候群、Stevens-Johnson症候群、発熱、咳嗽、胸部X線異常、好酸球増多、間質性肺炎、PIE症候群、肝機能障害、AST上昇、ALT上昇、Al-P上昇、黄疸、無顆粒球症、筋肉痛、脱力感、CK上昇、血中ミオグロビン上昇、尿中ミオグロビン上昇、横紋筋融解症	記載場所	重大な副作用
	頻度	頻度不明
2. 過敏症、蕁麻疹、紅斑、クレアチニン上昇、口唇炎、消化不良、胃炎、便秘、菌交代症、カンジダ症、口内炎、ビタミンK欠乏症状、低プロトロンビン血症、出血傾向、ビタミンB群欠乏症状、舌炎、食欲不振、神経炎、しびれ、倦怠感	記載場所	その他の副作用
	頻度	頻度不明

3. 発疹、そう痒、好酸球増多、白血球分画異常、顆粒球数変動、血小板数変動、AST上昇、ALT上昇、 γ -GTP上昇、Al-P上昇、ビリルビン上昇、LDH上昇、BUN上昇、嘔気、下痢、軟便、腹痛、嘔吐、食欲不振、腹部膨満感、ほてり	記載場所	その他の副作用
	頻度	5%未満
4. 発熱、発赤、口角炎、胃腸障害、頭痛、めまい、眠気、浮腫、口唇乾燥、眼痛、爪変色	記載場所	その他の副作用
	頻度	0.1%未満
5. AST上昇、ALT上昇、Al-P上昇、黄疸	記載場所	使用上の注意
	頻度	頻度不明
6. ショック、下痢、軟便、ビタミンK欠乏症状、高い血中濃度が持続、全身状態悪化、出血傾向、血中尿素窒素が上昇、血中クレアチニンが上昇、腎毒性	記載場所	使用上の注意
	頻度	頻度不明

ファロム錠150mgの相互作用

1. 薬剤名等：イミペネム・シラスタチンナトリウム

発現事象	本剤の血中濃度が上昇	投与条件	-
理由・原因	シラスタチンにより代謝酵素が阻害	指示	注意

2. 薬剤名等：フロセミド

発現事象	本剤の腎毒性が増強	投与条件	-
理由・原因	-	指示	注意

3. 薬剤名等：バルプロ酸ナトリウム

発現事象	血中濃度が低下してんかんの発作が再発	投与条件	-
理由・原因	-	指示	注意



薬学をはじめとする専門知識と情報処理技術が実現する高い信頼性と豊富な情報量

医薬品データベースの決定版 『 DIR 』